

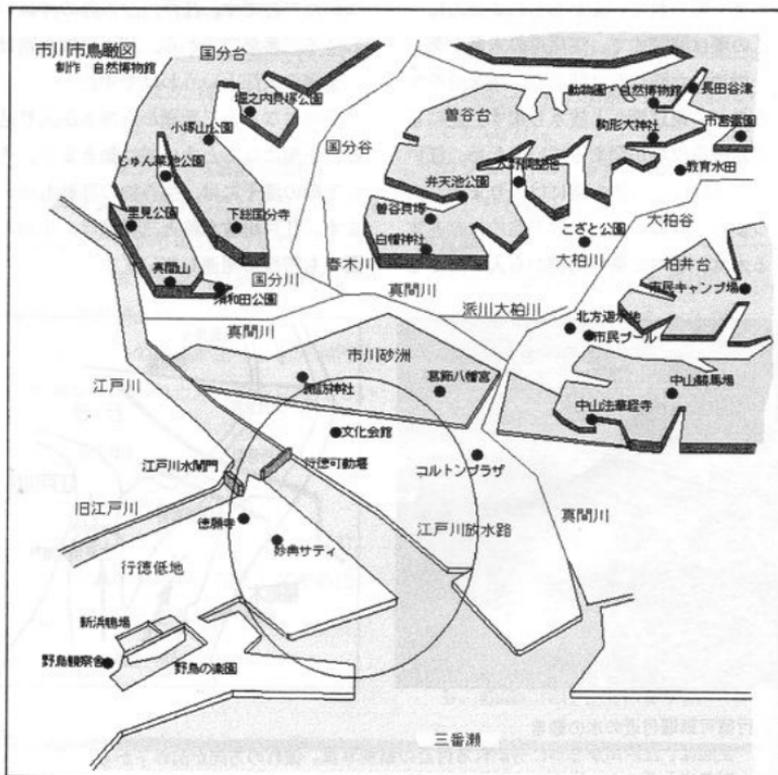
市川自然博物館

6・7月号

だより

(通巻80号)

自然の ある場所 Ⅱ 『江戸川放水路』



自然の ある場所 II 『江戸川放水路』

江戸川放水路は、都県境を流れ下った江戸川が行徳・浦安方面に向きを変える地点から、真っ直ぐ東京湾へ向けて掘った人工の水路です。のちに改称され正式名称は江戸川になりましたが、一時的に水を流すだけの放水路であることは、現在なお変わりありません。そこには、干潟を中心とする自然の水辺が残っています。

●三番瀬の入江

江戸川放水路の上流側、江戸川の本川から分かれたすぐの所に、行徳可動堰があります（併設されている行徳橋のほうがよく知られているかもしれません）。この堰は開閉式で、江戸川の水量が著しく増加した時にだけ開かれ、増水分をすみやかに東京湾へと放水します。逆に言うと普段は堰が閉まっているため、江戸川の水は江戸川放水路には入りません。つまり、普段、江戸川放水路内に存在する水は、すべて東京湾側から入ってくる

海の水ということになります。

江戸川放水路は、一見すると江戸川という大きな川の一部に見えます。ですが実際には、江戸川ではなく東京湾と結びついた存在です。江戸川放水路の沖はいわゆる三番瀬ですから、江戸川放水路は三番瀬の入江というわけです。

満潮になると三番瀬から海水が入り込み、干潮になると水は逆に動きます。そして潮の満干には、生き物の移動も伴います。江戸川放水路と三番瀬は、生物の面でも密接に関連しています。



△行徳可動堰付近の水の動き

左図は、江戸川が2つに分かれる付近の航空写真。流れの方向が図の下から上方向であることに注意。

右図は、同じ写真を線画であらわしたものの。

●多様な環境

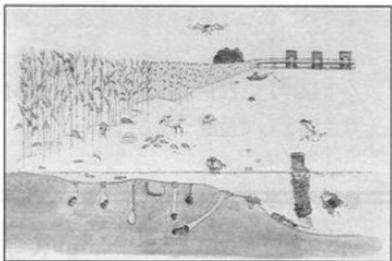
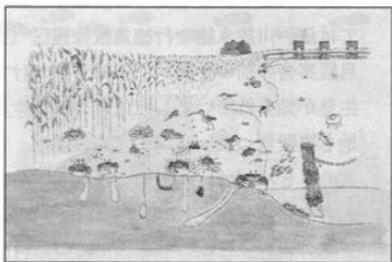
江戸川放水路の環境を横断的に見てみると、明るく開けた堤防、やや溼っていてヨシやセイタカアワダチソウなどが群生する河川敷、引き潮の時にだけ現れる干潟、いつも海水がある浅瀬……と分類することができます。

決して広いとは言えない江戸川放水路内で見られる環境の多様さは、そのままそこで暮らす生物の多様さにつながっています。野鳥を例にとると、ヒバリは堤防を中心に生活し、オオヨシキリは河川敷のアシ原で巣を作ります。シギやチドリ類は干潟にしか降りることはなく、カモや大型のカイツブリ類は水面に浮かんで暮らしています。また、昆虫は陸側に生息し、カニや貝は当然のことながら水側で暮らしています。異なる4つの環境が隣接して存在しているため、江戸川放水路には、その面積規模以上に多種多様な生物が集中しているのです。

●泥干潟

江戸川放水路の多様な環境のなかでも東京湾岸一帯を考えた場合、特に重要なのが泥干潟です。干潟には大きく砂の干潟と泥の干潟があり、潮干狩りなどでおなじみなのは前者の砂干潟で、泥干潟の方は、ひざまでもぐってしまうような柔らかな泥が堆積していて、人が入ることもあまりありません。

三番瀬一帯で言うと、船橋海浜公園沖が砂干潟にあたり、江戸川放水路が泥干潟にあたります。そして、埋め立てによって壊滅的な状況にある東京湾の干潟の中でも、特に泥干潟は近年までその価値



△江戸川放水路の干潟の様子
上が、引き潮で干潟が見える。
下は、満ち潮の時。

が正しく認識されませんでした。

「千葉県レッドデータブック」(千葉県環境部自然保護課編、2000年)に挙げられた保護を要する貝類のリストには、オキシジミ、ハナグモリ、ソトオリガイの二枚貝と、カワグチツボ、エドガワミズゴマツボの巻き貝の名前があります。いずれも江戸川放水路では普通の貝ですが、泥干潟で暮らすために東京湾全体では極めて少なく、特に二枚貝の3種については千葉県では江戸川放水路と小櫃川河口だけが生息地とされています。

●トビハゼ

トビハゼは、干潟の上で生活する変わった習性の魚です。有明海などでは普通に見られますが東京湾では少なく、かつては江戸川放水路と行徳鳥獣保護区（野鳥観察舎の前の干潟）、谷津干潟だけで生息が知られていました（近年は新生息地も複数見つかっています）。また、日本のトビハゼは、熱帯地方を中心に分布するトビハゼ類としては例外的に温帯地方に分布し、なかでも江戸川放水路は国内および世界の北限生息地のひとつとして知られています。そのため江戸川放水路では、かつてトビハゼに配慮した河川工事が行われたこともあり（通称・トビハゼ護岸）、江戸川放水路のシンボリックな生物として位置づけられています。

●シギ・チドリ類

1年のうちに熱帯と温帯・亜寒帯を往復するシギやチドリといった渡り鳥にとって、干潟は羽を休め餌を取る場として重要な役割を担っています。東京湾奥部では三番瀬や谷津干潟が主要な飛来地として知られていますが、江戸川放水路もまた同様の機能を果たしています。干潟が狭く、さまざまな構造物がある関係でダイシャクシギやホウロクシギといった大型のシギはめったに来ませんが、チュウシャクシギやオオソリハシシギ、キョウジョシギ、キアシシギ、ハマシギといった中～小型のシギ類、あるいはメダイチドリなどのチドリ類は少なくありません。干潟の重要性は、そこで暮らす生き物だけでなく、こういう一時的に利用する生物の存在からも知ることができます。

●塩生植物

海水の影響を受ける干潟や砂浜は、多くの植物にとっては住みにくい過酷な環境です。しかし、塩分のある環境でも生き抜く術を身につけた植物もあり、干潟などではそういった（逆に言うと他の場所では見ることのできない）植物が生育しています。

ウラギクは、おもに干潟だけで見られる野菊の仲間です。埋め立て地で一時的に大発生することはありますが、安定した自生地は少なく、「改定版レッドデータブック」(環境庁編、2000年)にも絶滅危惧種として挙げられています。江戸川放水路では百株以上もある群落がアシ原の中に成立していましたが、数年前の河川敷の火災で打撃を受け、現在、群落は再生の途上にあります。

この他、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、シオクグ、コウボウシバ、ツルナ、ハチジョウナ、アイアシ、トウオオバコ、ウシオハナツメクサなどの塩生植物が生育しています。



△ハマヒルガオの群落。
後方の橋は湾岸道路。



街かど自然探訪

おじゃまします!

あらい

新井・新井緑道

新井緑道は、新井と広尾の境を流れる新井川の上につくられた歩道です。通り過ぎるだけだと5分位で抜けられる短い道ですが、4月には桜の花が咲き、5月はアジサイの花、10月はイチョウの黄葉などを見ながら散策が楽しめます。ベンチに座って、10分位じっとしていると周辺からヒヨドリやオナガなどの野鳥も寄ってきて間近で観察することもできます。チョットした緑地ですが足を止めると見ると季節をおって楽しめます。



RDB レッドデータブック

掲載種紹介



カンエンガヤツリ

江戸時代の本草学者・岩崎灌園（かんえん）にちなむ名前の本種は、いわゆるカヤツリグサの仲間ですが生育する場所は限られ、県内では利根川・江戸川流域が自生地として知られています。

市内で見られるものは、江戸川の河川敷で行われているヒメマイトトンボの生息地創出事業で上流から運んできた土から発芽したものです。本来の自生とは言えませんが、同じ水系でもあり、いちおう市内のものとして扱っています。





くすのきのあるバス通りから

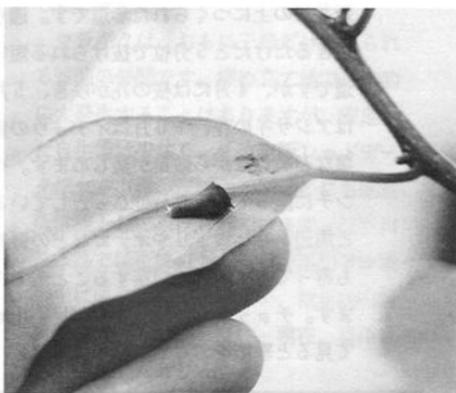
NO. 26 今回の観察は…



アオスジアゲハの幼虫が！

バス通りのクスノキでアオスジアゲハが産卵しているような素振りを車中（信号待ち）より見てからおよそ2週間後、なんと幼虫を見つけちゃいました。気にかけるようになって以来、何年越しでしょう。結構、下のほうの枝で、産んだところからあまり動いていないようです。かじった葉もないようでしたが、日が経っているので、葉自体も育って新しい葉に移ったばかりだったのでしょうかね。

（水垣麻理子さん）



むかしの市川



このコーナーでは、博物館が1986年に行ったアンケート調査の結果から、むかしの市内の様子を紹介しています。

（原則として回答は原文のまま掲載）

・昭和40年頃まで、家並はバス通りに沿って並び、その後ろは、直ぐタンポとなっていた。タンポの中には水路が沢山あり、フナやハゼがよく釣れた。こどもたちは江戸川で水遊びをし、葛西まで江戸川を泳いで渡った。海岸近くはカヤ場（ヨシズ材料）、干潟ではハ

マグリ、アサリ、カレイ、シャコなどが沢山とれた。（新井）

- ・周辺は一帯の田浦で南通りは田浦の用水堀りで今の1/3ほどの道路で有り「サンハイツ」の所に水門が有って水が必要の時に南方面、新田方面、と水を流して田浦に入れた。家の中より江戸川の土手の上に白帆が見えた。（新田）
- ・田浦の用水路でどじょうがよくとれた。真間川では川の中へ入ってなまず、うなぎ、淡貝などがよくとれた。（宮久保）

わたしの
観察ノート
No.62

◆大町公園より

- ・コブシの花が咲きだしました(3/8)。イヌシデやヤナギ類の芽もほころんでいました。
- ・ミヤマホオジロを見ました(3/8)。カンシラダカの群れに混じていました。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・スナヤツメが集団産卵をしていました(4/8)。6匹だけでしたが無事、繁殖が行われているのはうれしいことです。
- ・オオコオイムシが背中に卵をびっしりとつけていました(4/28)。卵が孵るまで背負っています。

金子謙一(自然博物館)

- ・ベニシジミを見ました(4/17)。サナギからでたばかりの個体でした。

清野元之(自然博物館)

◆柏井町周辺より

- ・ヒキガエルの卵塊がありました(4/21)。野球場脇の汚れた水たまりに産んでいました。キャンプ場の池に水が無かったからでしょう。

宮橋美弥子

- ・ミズキの花が咲いていました(4/21)。斜面林はフジの紫の花とミズキの白い花が混じりとてもきれいでした。

金子謙一

◆里見公園より

- ・カワセミを見ました(3/16)。奥の池にいてお互いに鳴きあっていました。
- ・ツバメを初認しました(3/17)。
- ・アオジのさえずりを聞きました(4/6)。
- ・センダイムシクイのさえずりを聞きました(4/20)。

◆堀之内貝塚公園より

- ・フクロウが2羽並んでシラカシにとまっていた(4/6)。

◆小塚山公園周辺より

- ・モズがゴジュケイの声まねをしていました(3/17)。
- ・ゴジュケイの鳴き声を久し振りに聞きました(3/30)。

◆真間山弘法寺周辺より

- ・マヒワの群れを見ました(3/10)。
- ・ツミの鳴き声を聞きました(4/20)。

◆国府台江戸川周辺

- ・アカエリヒレアシギを見ました(4/7)。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◆江戸川放水路周辺より

- ・ユリカモメを見ました(4/20)。顔が黒い個体が目立つようになりました。

金子謙一

◎春の進行は、2週間ほど早まりながらも、順調に推移しています。



行事案内



観察会

申し込みが必要な行事です。

〇いきもの観察会…親子向けの内容です。いきものの採取なども行い、楽しみながら身近な自然に親しみます。小さなお子様連れの方や、大人の方だけでもどうぞ参加ください。 定員：先着親子10組

	テーマ	日時	場所	受付開始日
いきもの観察会	トンボやザリガニ	7月14日(日)午前	長田谷津	6月22日～
いきもの観察会	干潟のいきもの	8月11日(日)午前	江戸川放水路	7月20日～

ホタルを学ぼう

お申し込みは、7月6日(到着分)より。

大町自然観察園に生息するヘイケボタルの生態や生息環境などについて学習します。

- *日時 7月26日㊟・27日㊤・28日㊦ 午後6時～8時 内容は各日とも同じ。
- *定員 各回とも、先着20名。参加希望日を忘れずに書いて、お申し込みください。

申し込み方法

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

散策会

お申し込みの必要はありません。

市内のいろいろな場所をゆっくりと散策しながら、四季それぞれの自然を楽しみます。

- *時間 午前10時～11時30分 集合場所については、博物館までお問い合わせください。

テーマ	日にち	場所
にぎわう干潟	7月21日(日)	江戸川放水路
オニヤンマの谷津	8月18日(日)	長田谷津

名前をしらべる会

標本をもって、直接会場へお越しください。

夏休みなどに作った、植物・昆虫などの標本に、専門の先生が名前をつけます。

- *日にち 8月31日(土) *受付時間 午前10時～11時30分 午後1時～3時
- *会場 市民会館(葛飾八幡宮参道脇)

長田谷津ボランティア

雨や大風など、天候不良の場合は中止です。

はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もありますので、作業内容や身支度などについて、ご面倒でも、まずは博物館にお電話でお問い合わせください。

湿地の環境整備をお手伝いしていただけますか。

- ・日時 7月28日㊦ [8月はお休み] 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口

野草名札付けのお手伝いを

していただけますか。

- ・日時 7月7日㊦、8月4日㊦、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口

市立市川自然博物館だより
第14巻 第2号 (通巻第80号)
発行日/平成14年6月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature>